

## 創立 80 周年を迎えました

川崎地質株式会社

当社は 1943 年 7 月 22 日に川崎試錐機製作所として創立し、2023 年 7 月 22 日に創立 80 年を迎えました。

創立は第二次世界大戦の最中であり、当時の国策であった地下資源開発に沿って、ガス井の掘削工事と試錐機を製作する会社として起業しました。これを出発点として、時代の変化に合わせて先駆的な視点を持って業態を変え、「協力一致」「積極活動」「堅実経営」の社是のもとで社業を発展させてきたことが、当社の地質調査業登録第 1 号認可に繋がったと自負しております。

この先も健全経営に努め、社員が一丸となり、90 周年、100 周年に向かって一歩ずつ歴史を紡いでまいります。引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



挨拶する栃本社長



来賓からの祝辞(野口 OB 会会長)



OB 会へ社史を贈呈



多数いただいたお花



お祝いの品々



完成した「川崎地質 80 年史」

# 誇りと希望を活力に

## 川崎地質 創立80周年式典



川崎地質は21日、東京都港区の本社で創立80周年記念式典を開いた。会場には社員とOBら約40人が出席したほか、ウェブ会議システムで全国の拠点から約120人の社員がオンライン参加し、節目を祝うとともに今後のさらなる発展を誓った。

あいさつした栃本泰浩社長は80周年記念事業の意義について、「社員に当社の歴史を把握してもらい、どのように社会貢献してきたか改めて認識して自社への誇りと将来への希望を感じてもらおう。それにより会社への帰属意識と一体感を強め、次の時代に向かっ

ている」と説明した。

その上で、「ボーリング機械製作から掘削調査までをベースに先駆的な視点を持ち、協力一致・積極活動・堅実経営の社是の下で取り組んできたことが地質調査業登録第1号につながったのではないか。社会の要求にまじめに対応し、ニッチな分野ではあるが真摯（しんし）に向き合ってきた結果がこの80年の積み重ねであると感じている」とし、「今後も一つひとつ課題解決の努力を惜しまず、地道に歴史を積み重ねていくことができるよう取り組んでいく」と語った。写真。

その後、同社OB会の野口静雄会長が「これから先10年、20年、100年を見据えてさらなる発展と飛躍を遂げられることを祈念する」と祝辞を寄せたほか、記念ロゴ制定や社史編さん、アーカイブデー

データベース作成などの記念事業の内容が紹介された。

※出典：建設通信新聞（2023年7月25日付3面掲載）

※上記記事の転載は、新聞社から了解を頂いております。

弊社 80 周年を迎えました



ロゴマークは地質調査に必要な  
拡大鏡などをイメージした

川崎地質は21日、東京都港区の本社で創立80周年記念式典を開いた。栃本泰浩社長が訓示を行い、80周年記念事業などを紹介。記念事業の一環で製作した社史『川崎地質80年史 1943〜2023』をお披露目し、同社の創業から現在に至るまでの歴史を残存する資料などで振り返った。

## 川崎地質が80周年記念式典



栃本社長による訓示

3〜2023』をお披露目し、同社の創業から現在に至るまでの歴史を残存する資料などで振り返った。

### ロゴマークを幅広く展開

足した川崎試錐機製作所が当社の始まりだ。80周年記念事業では社史を編さんした。社員の皆さんには当社がどのように社会に貢献してきたのかを再認識し、会社への誇りと将来の希望を感じてもらいたい。それにより会社への帰属意識と一体感を高め、次の時代に向かっていく力を付けてもらうことを期待している」と訓示した。

同社は43年7月22日、東京・日本橋で川崎試錐機製作所として発足。当時は第2次世界大戦中で、国策の地下資源開発に使うボーリングマシンを製作する会社として起業した。発足2年後に日本が終戦を迎え、治山・治水事業や電源開発事業でボーリング調査の需要が増えたことを受け、51年に社名を「川崎ボーリング」に変更した。

80周年記念ロゴマークは名刺や封筒に印刷するなど幅広く展開する。ロゴマークの「0」は、地質調査で用いる拡大鏡をイメージ。その中に都市、地下、地層を表現し、地球を診ることによってインフラ整備などに長く携わってきた同社の歴史を表した。

※出典：日刊建設工業新聞（2023年7月25日付3面掲載）

※上記記事の転載は、新聞社から了解を頂いております。